

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念が、地域との交流など地域密着型サービスの意義を十分に表現しきれておらず、また、理念を全職員の間で十分共有しているとは言い切れない。	いな穂の理念を見直し、併せて全職員にわかりやすい行動指針を設定し、ケア会議等の場で一層の徹底を図る。	理念に、地域との交流などの文言を盛り込み、地域密着型サービスとしての役割を明らかにするとともに、行動指針をよりわかりやすい表現に改める。併せて、ケア会議等の場を通じて理念等を改めて配布し、話し合いを行い、全職員での真の共有を目指す。	3ヶ月
2	2	「事業所と地域とのつきあい」について、これまでは事業所の行事に地域の方をお招きする、あるいは、行事を共催するといったことにとどまっている現状がある。	項目3「地域貢献」とも共通する事項であるが、小地域福祉活動の場を提供するとともに、地域密着型の認知症対応型共同生活介護事業所として、地域の方が悩まれている在宅での認知症介護や福祉のなやみ・困りごとについて、相談等をほりおこし、解決に向けての情報や方策を発信することにより、地域と密着したつきあいの実現を目指す。	地域の行事等に参加する視点にとどまらず、地域密着型サービス事業所の特性、ノウハウ・人材を生かし、増築する「地域交流スペース」を地域住民の小地域福祉活動展開の場として提供するとともに、認知症介護をはじめとする介護・福祉のなやみや困りごとをほりおこし、「地域交流スペース」において相談を実施し、あるいは、地域包括支援センター・行政等と連携して介護に係る講演会・教室等を実施する。[23年度は試行実施]	12ヶ月
3	10	運営に関する職員意見の反映については、これまで個別面接の機会を設けるとともに、目標の自己申告の仕組みを設けてきたが、なお職員から自由に意見を聴き、やる気をひきだすことができる体制づくりに向けた改善が必要である。	これまで行っていた目標の自己申告の仕組みを改善し、職員が日々のケアのことについて意見を言い、いな穂の運営に反映しやすい制度として運用する。	全職員を対象に、特に日々のケアに関する1年間の長期目標・6か月の短期目標を自由に提案する「目標提案・管理制度」を設け、自己評価・管理職等による達成度評価を経て、組織として評価する仕組みを導入する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。